

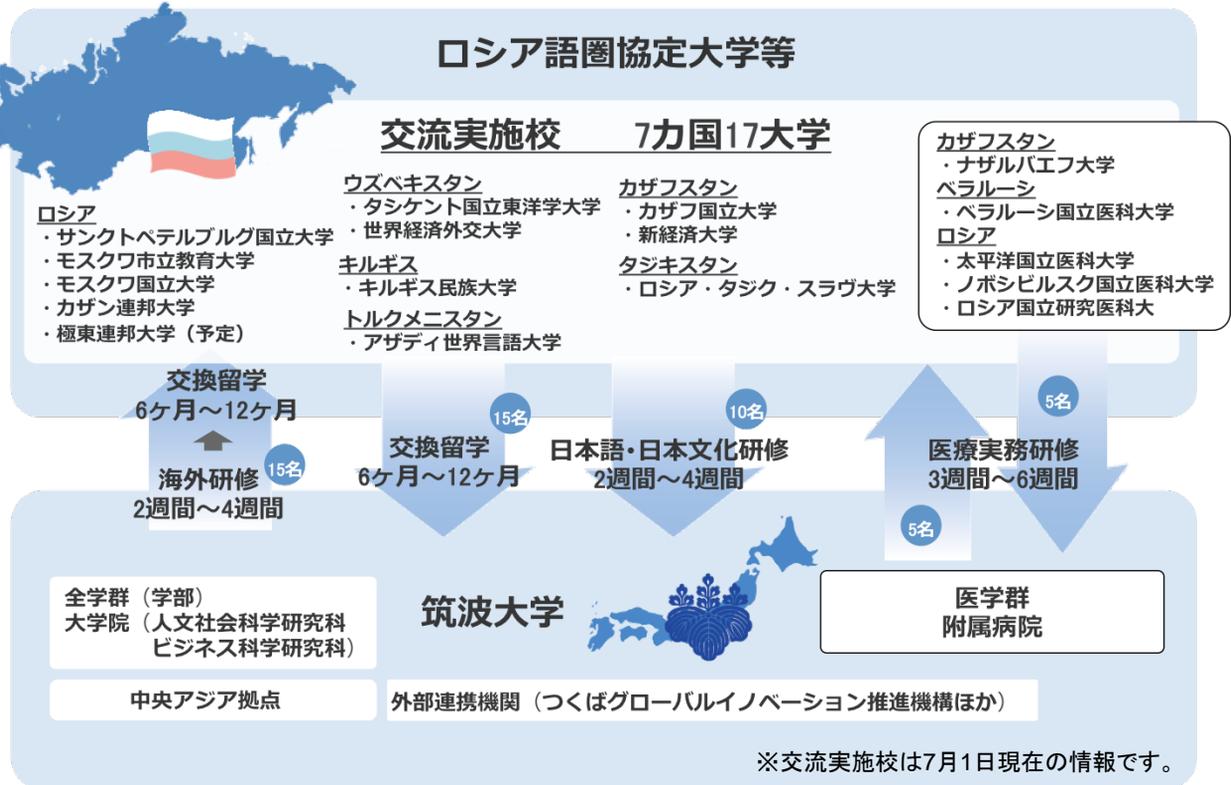
1. 構想の概要

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))

ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム

【構想の概要】

ロシア・ベラルーシ・カザフスタン・ウズベキスタン・キルギス・タジキスタン・トルクメニスタンのロシア語圏7カ国の交流実施校との双方向学生交流を軸とした学士課程の教育プログラムを実施し、日本とロシア語圏を自在に活躍できる実務型グローバル人材を育成する。



【交流プログラムの概要】

①交換留学(6～12ヶ月／双方向)、②海外研修(2～4週間／派遣学生対象)、③医療実務研修(3～6週間)、④日本語・日本文化研修(2～4週間／受け入れ学生対象)の4つの教育活動を行う。

【本構想で養成する人材像】

日本とロシア語圏の社会・文化・習俗・歴史などに精通し、日本とロシア語圏を舞台にビジネスなどを幅広く展開できるマルチリンガル能力と実務能力を兼ね備え、企業や国際機関、省庁、NGOなどで即戦力となるグローバル人材。

【本構想の特徴】

ロシア連邦のみならず、中央アジア各国などロシア語が社会的に広く使用されている地域を対象としていること。また、語学力と同様に実務能力の養成にも力を入れ、ビジネス研修や経済フォーラム企画運営などの実習を多く取り入れていること。

【交流予定人数】

	H26	H27	H28	H29	H30
学生の派遣	8	38	45	45	45
学生の受入	8	40	40	40	40

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))

ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



〈 海外研修の様子 〉

・海外研修の実施

3月に1～2週間の海外研修を実施。ロシア、エストニア、ラトビア、リトアニア、カザフスタン、タジキスタンの6カ国へ、**総勢52名の学生(学部生47名、大学院生5名)**を派遣した。研修はプレゼンテーションやディスカッションなど**主体性や語学力、実務能力が問われる内容**となっており、短期間ではあったものの本プログラムの目的にふさわしい研修内容となった。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

52名の学生(学部生47名、大学院生5名)をロシア、エストニア、ラトビア、リトアニア、カザフスタン、タジキスタンの6カ国へ1～2週間派遣。

○ 外国人留学生の受入

交流実施大学より14名の外国人学生を受け入れ。平成27年度から本格的に開始する教育プログラムにおいて、インターンシップ等に参加する予定。

	H26	
	計画	実績
学生の派遣	8	52
学生の受入	8	14

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・キックオフシンポジウムを実施、交流実施15大学の代表団が来日

2月、キックオフシンポジウムを実施。本事業の交流実施15大学の代表団およそ70名を招聘し、今後の大学間交流の枠組みを議論。

・カザフ国立大学とキャンパスインキャンパス構想実現へ協力を開始

カザフ国立大学と本学との間で、大学間共通単位認定枠を盛り込んだ「**キャンパスインキャンパス**」構想の実現に向けた協力を両大学間で進めていく旨を記載した**メモランダム**を締結した。



〈 キックオフシンポジウムの様子 〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・ロシア語圏7大学と新たに大学間交流協定を締結

モスクワ国立大学、カザン連邦大学、モスクワ国立研究医科大学、太平洋国立医科大学(ウラジオストク)、ノボシビルスク国立医科大学(以上、ロシア)、ナザルバエフ大学(カザフスタン・アスタナ)、ベラルーシ国立医科大学(ベラルーシ・ミンスク)の**7大学と新たに大学間交流協定を締結**し、各大学との交換留学を実現する環境を整えた。



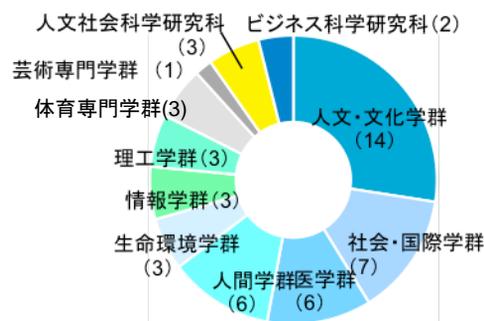
〈 モスクワ国立大学との協定締結。左からエヴゲニー・アフナシエフ駐日ロシア連邦大使、ヴィクトル・サドーヴニチモスクワ国立大学総長、永田恭介筑波大学学長 〉

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

・海外研修へ9学群、2研究科から参加

全学的な協力・連携のもと、9学群(学群=学部に対応)、大学院2研究科の学生が海外研修へ参加。様々な専門の学生が国際経験を積む機会となった。

〈 海外研修参加者・学群内訳 〉



■ 特記すべき事項等

・日露学生フォーラムの開催が決定

「日露学生フォーラム」(日露青年交流センター・筑波大学共催)を平成27年12月に筑波大学で開催することが決定。

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))

ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



派遣学生とロシア人学生の交流
(モスクワにて)

・海外・国内インターンシップの実施

派遣学生は留学先における海外インターンシップを開始し、ロシア語、英語、カザフ語等を用いて実務に取り組んでいる。受入学生も住宅販売で国内屈指のシェアを持つ(株)飯田産業においてインターンシップを実施し、**ロシア語圏でのビジネスプランを考案するなど実践的な内容**に取り組んだ。

・日露学生フォーラム2015の実施

2015年12月、日露青年交流センターと筑波大学の共催で「日露学生フォーラム2015」を開催し、**ロシア16大学から30名、日本国内の12大学から30名を本学に招聘**し、英語での討論を実施した。日露和親条約締結の地である伊豆の視察も行った。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日本人学生**9名**を1年間の交換留学生として、ロシア、カザフスタン等に派遣。短期の海外研修では**7カ国へのべ50名を派遣**。このうち医療視察研修では医学群学生10名をロシア、ベラルーシの医科大学へ派遣した。

○ 外国人留学生の受入

ロシア、中央アジアから**36名の交換留学生を受入れ**。日本企業でのインターンシップ等を実施。医療実務研修ではロシア、ベラルーシから**8名の医学生を受入れ**、本学附属病院での臨床実習を行った(小児科、放射線腫瘍科等)。

	H27	
	計画	実績
学生の派遣	38	76
学生の受入	40	98

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・インターンシップおよび海外研修の科目を開設

平成27年度に「**海外インターンシップ**」科目、「**国内インターンシップ**」科目(いずれも**2単位**)を新規開設し、平成28年度中には「海外プロジェクト研修」の新規開設も決まった。これにより、派遣学生、受入学生に対して、より質の保証を伴った教育活動ができるようになった。



日露学生フォーラム2015で
討論する日本人・ロシア人学生
2015年12月

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・コーカサス諸国・モルドバとの協定締結協議

コーカサス諸国(アゼルバイジャン、アルメニア、ジョージア)およびモルドバの有力大学との交流開始を目指し、2015年12月に本学教員が各大学を訪問し協議。このうちアゼルバイジャン言語大学、トビリシ自由大学(ジョージア)、ロシア・アルメニア・スラヴ大学(アルメニア)と大学間交流協定を締結。モルドバの大学とも平成28年度に協定を締結し、交流を開始する予定である。



留学生を対象とした
国内インターンシップ
2015年7月

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

・海外研修・海外インターンシップ帰国報告会の実施

海外研修・海外インターンシップの帰国報告会を2015年5月、10月、2016年4月(2回)の計4回実施し、研修参加学生が研修の成果を報告した。報告会には多数の学生、教職員が参加し、本プログラムの意義について理解が深まった。

■ 特記すべき事項等

・医療実務研修での派遣プログラムが開始

2016年5月より、医学群の学生2名が**ロシア国立研究医科大学で約1ヶ月の臨床研修を開始**した。この研修は「海外医療実務研修」(11単位)の一環として単位が取得できる。



医療実務研修での受入学生と
本学附属病院のスタッフ

4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))

ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



経済フォーラムでのディスカッション
(モスクワにて)
平成28年6月

・経済フォーラムおよび海外・国内インターンシップの実施

派遣学生は、日本とロシア語圏の経済交流活性化を目的とした**経済フォーラムを派遣学生が主体となり企画・実施**し、雇用、観光など様々なテーマを設定して議論を行った。**留学先における海外インターンシップ**にも取り組んだ。受入学生も住宅販売で国内屈指のシェアを持つ(株)飯田産業においてインターンシップを実施し、**ロシア語圏でのビジネスプランを考案するなど実践的な内容**に取り組んだ。

・医療実務研修を日露双方で実施

医療実務研修では、本学附属病院にてロシア側の医学生24名を受入れ、約1カ月間の実務研修を実施した。また本学医学群生2名をロシア国立研究医科大学へ派遣し、実務研修を実施した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日本人学生**11名**を半年～1年間の交換留学生として、ロシア、カザフスタン等に派遣。短期の海外研修では**5カ国へのべ43名**を派遣。このうち医療視察研修では医学群学生11名をロシア、カザフスタンの医科大学へ派遣した。

○ 外国人留学生の受入

ロシア、中央アジアから**51名**の交換留学生を受入れ。日本企業でのインターンシップ等を実施。医療実務研修ではロシアから**24名**の医学生を受入れ、本学附属病院での臨床実習を行った(小児科、放射線腫瘍科等)。

	H28	
	計画	実績
学生の派遣	45	54
学生の受入	40	106

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・海外研修の科目を開設

平成28年度、本プログラムの海外研修の一部を人文・文化学群「**海外プロジェクト研修**」(2単位)として科目開設した。医療視察研修についても、医学群医療科学類「**国際生命医科学実習**」(2単位)として単位認定されるようになった。平成27年度にはインターンシップ科目の単位化も始まり、より質の保証を伴った教育活動を実施できるようになった。



「地域医療に関する日露若手医療関係者交流」
(日露青年交流センター、新潟大学との共催)
平成29年2月

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・コーカサス諸国・モルドバの有力大学と協定締結

コーカサス諸国(**アゼルバイジャン、アルメニア、ジョージア**)およびモルドバの有力大学であるADA大学、アゼルバイジャン言語大学(以上アゼルバイジャン)、トビリシ自由大学(ジョージア)、ロシア・アルメニア・スラヴ大学(アルメニア)、モルドバ国立大学と大学間交流協定を締結した。これによりロシア語圏諸国との教育交流の環境が大きく向上した。平成28年12月には、上記**5カ国の日本語教師、日本語学習者を対象とした日本語・日本文化研修**を実施した。



日本語・日本文化研修
平成28年12月

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開、成果の普及

・海外研修・海外インターンシップ帰国報告会の実施

海外研修・海外インターンシップの帰国報告会を計3回実施し、研修参加学生が研修の成果を報告した。報告会には多数の学生、教職員が参加し、本プログラムの意義について理解が深まった。

・中間成果報告会の実施

平成28年5月、本事業の**中間成果報告会**を実施した。同時に「中間成果報告書」を作成し、内外に成果の発信を行った。



東北大学との協定締結
平成29年3月

■ 特記すべき事項等

・東北大学と連携協定を締結

平成29年3月、**東北大学**と大学の世界展開力強化事業(ロシア)における連携協力に関する協定を締結した。

5. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))

ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



〈経済フォーラムにて、議論をする
日本・ロシアの学生。2018年2月〉

・経済フォーラムおよび海外・国内インターンシップの実施

日本とロシア語圏の経済交流活性化を目的とした**経済フォーラム**を留学中の派遣学生が主体となり企画・実施し、文化、観光など様々なテーマを設定して議論を行った。留学先における**海外インターンシップ**にも取り組んだ。受入学生も住宅販売で国内屈指のシェアを持つ(株)飯田産業においてインターンシップを実施し、**ロシア語圏でのビジネスプランを考案するなど実践的な内容**に取り組んだ。

・医療実務研修を日露双方で実施

医療実務研修では、本学**附属病院にてロシア側の医学生10名を受入れ**、約1カ月間の実務研修を実施した(腎泌尿器科、循環器外科等)。また**本学医学群生1名をロシア国立研究医科大学へ派遣し**、実務研修を実施した(外傷外科)。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日本人学生8名を半年～1年間の交換留学生として、ロシア、カザフスタン等に派遣。短期の**海外研修ではのべ55名を派遣**。このうち医療視察研修では医学群学生8名をロシア(モスクワ、ノボシビルスク)の医科大学へ派遣した。医療実務研修では1名をロシア国立研究医科大学へ派遣した。

○ 外国人学生の受入

ロシア、中央アジアから**22名の交換留学生を受入れ**。日本企業でのインターンシップ等を実施。医療実務研修ではロシアから**10名の医学生を受入れ**、本学附属病院での臨床実習を行った(腎泌尿器科、循環器外科等)。日本語・日本文化研修として、**日本語教育・日本研究を専門とする14名の教員・学生をロシアの7大学から受入れた**。

	H29	
	計画	実績
学生の派遣	45	64
学生の受入	40	44



〈日本語・日本文化研修。2017年12月。
筑波大学〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・約9割の日本人学生を「単位取得を伴う」留学・研修へ派遣

本プログラムに参加した日本人学生64名のうち57名(約9割)を、「単位取得を伴う」**研修・留学として派遣**した。プログラム活動は「海外プロジェクト研修」(2単位)、「海外インターンシップ」(2単位)、「クリニカル・クラークシップⅢ」(11単位)など、本学の科目として単位認定される枠組みを構築し、**質の保証を伴う教育活動として実施**している。



〈医療視察研修。2018年3月。
ノボシビルスク国立医科大学〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・共同プログラム委員会の実施

ロシア7大学の担当教員が参加し、共同プログラム委員会を実施し、プログラム実施に関わる様々な課題について議論した。特にロシア側大学における単位互換の状況について集中的に議論し、今後の質保証を伴った交流プログラムの形成に必要な情報を得ることができた。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

・海外研修・海外インターンシップ帰国報告会の実施

海外研修・海外インターンシップの帰国報告会を計3回実施し、研修参加学生が研修の成果を報告した。報告会には多数の学生、教職員が参加し、本プログラムの意義について理解が深まった。

・成果報告書の発行・ウェブサイトリニューアル

平成30年2月、**2017年成果報告書**を発行した。また、**プログラムウェブサイト**をリニューアルし、活動成果の対外発信の強化を進めた。



〈受入プログラム修了式。2017年8月。
筑波大学〉

■ 特記すべき事項等

・「日露学生フォーラム2017」に本プログラム学生が参加

2017年9月、ウラジオストクで開催された「日露学生フォーラム2017」に本プログラムから日本人学生2名が参加。うち1名が、日露両国の学生が議論し取りまとめた提言を日本側代表として安倍首相に手渡した。



〈2017年成果報告書〉

6. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))

ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

・医療実務研修を日露双方で実施

医療実務研修では、本学附属病院にてロシア側の医学生11名を受入れ、約1カ月間の実務研修を実施した(腎泌尿器科、循環器外科、耳鼻咽喉科、消化器内科、心臓血管外科、眼科、脳神経外科)。また本学医学群生1名をロシア国立研究医科大学・ノヴォシビルスク国立医科大学へ派遣し、実務研修を実施した(外傷外科)。



〈医療実務研修での受入学生と
本学付属病院のスタッフ〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日本人学生4名を半年～1年間の交換留学生として、ロシア、エストニア、ラトビア、キルギスに派遣し、経済フォーラム、現地企業でのインターンなどを行った。このうち医療視察研修では医学群学生8名をロシア(モスクワ・カザン)の医科大学へ派遣した。短期の海外研修ではのべ51名を派遣。医療実務研修では1名をロシア国立研究医科大学・ノヴォシビルスク国立医科大学へ派遣した。

○ 外国人学生の受入

ロシア、中央アジアから21名の交換留学生を受入れ、日本企業でのインターンシップ等を実施。日本語・日本文化研修として、日本語教育・日本研究を専門とする16名の教員・学生・大学院生をロシアのモスクワ市立教育大学から受入れた。

	H30	
	計画	実績
学生の派遣	45	55
学生の受入	40	47

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・8割の日本人学生を「単位取得を伴う」留学・研修へ派遣

本プログラムに参加した日本人学生51名のうち41名(8割)を、「単位取得を伴う」研修・留学として派遣。プログラム活動は「海外語学研修ロシア語A」(3単位)、「海外プロジェクト研修」(2単位)、「海外インターンシップ」(2単位)、「臨床的・クラークシップⅢ」(11単位)など、本学の科目として単位認定される枠組みを構築し、質の保証を伴う教育活動として実施している。



〈日本語・日本文化研修。2018年12月。
筑波大学〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・外部評価委員会の実施

平成31年2月1日、第4回外部評価委員会を実施した。同委員会では、1年間の本プログラムの実績報告や学生からの活動報告を行い、委員よりプログラムに対する評価や、広報の体制に関する改善提案がなされた。



〈医療視察研修。2018年2～3月。
カザン国立大学医学部〉

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

・海外研修・海外インターンシップ帰国報告会の実施

海外研修・海外インターンシップの帰国報告会を計2回実施し、研修参加学生が研修の成果を報告した。報告会には多数の学生、教職員が参加し、本プログラムの意義について理解が深まった。

・成果報告書の発行

平成31年2月、本プログラム5年間の成果をまとめた最終成果報告書を発行した。



〈受入プログラム修了式。2018年8月。
筑波大学〉

■ 特記すべき事項等

・後継事業として日本財団「中央アジア・日本人人材育成プロジェクト」が発足

当該プログラム自走化の一環として2019年1月、日本財団による助成事業「中央アジア・日本人人材育成プロジェクト」が発足した。同事業は、大学の世界展開力強化事業(ロシア)のノウハウやネットワークを活用し、中央アジア地域のSDGs達成や社会課題解決に貢献できる人材を育成することを目的としている。